学校番号	3001

令和２年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	改訂版　新　高校の数学Ａ　（数研出版）						
副教材等	教科書学習ノート　数学Ａ　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では課題に対してまず自ら考え、次に周りと協力して考える協働的な活動をします。
・問題集は定期考査ごとに提出してもらいます。日頃から少しずつでも進めて、定着に努めましょう。また、授業用ノートも提出してもらいます。板書を写すだけでなく、自分の考えや周りの考えも記録しましょう。

２　学習の到達目標

場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について、基礎的な知識を習得する。
また、事象を数学的に考察する能力を養い、数学の良さを認識するとともに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b: 数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	場合の数と確率、整数の性質及び図形の性質に関心を持つとともに数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、場合の数と確率、整数の性質及び図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率、整数の性質及び図形の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率、整数の性質及び図形の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	振り返りシート 確認テスト ノート 観察等	確認テスト 定期テスト ノート 観察等	確認テスト 定期テスト ノート 観察等	確認テスト 定期テスト ノート 振り返りシート 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th colspan="4">主な評価の観点</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th rowspan="2">評価方法</th></tr>
<tr><th>a</th><th>b</th><th>c</th><th>d</th></tr>
<tr><td rowspan="4">1学期</td><td rowspan="4">場合の数と確率</td><td>集合</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="4">a:具体的な事象に対して、順列や組合せを用いて確率を求めようとしている。
b:問題の意味を正しく読み取り、順列を求める問題なのか、組合せを求める問題なのか判断することができる。また、確率の性質を目的に応じて選択することができる。
c:式を用いて事象を表現し、見通しをもって計算することができる。
d:複雑な順列や組合せ、確率の性質がより基本的で簡単な公式や性質に帰着できることを理解している。</td><td rowspan="8">確認テスト
ノート
定期テスト
観察</td></tr>
<tr><td>順列</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>組合せ</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>確率</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2学期</td><td rowspan="3">図形の性質</td><td>三角形についての諸定理</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td rowspan="3">a:定理を用いて角度や辺の長さを求めようとしている。
b:求めたい数量に応じて用いるべき定理を正しく考察できている。
c:正しい公式を用いて式を立て、式を目的に応じて変形できている。
d:複雑な図形でも、補助線を引くなどの手段でより簡単に求めることができると理解している。</td></tr>
<tr><td>円についての諸定理</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>空間図形</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>整数の性質</td><td>約数と倍数・ユークリッドの互除法</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>a:約数と倍数に関心を持ち、具体的な事象の考察に活用しようとしている。</td></tr>
</table>

		不定方程式	○	○	○	○	b:不定方程式について約数や倍数の性質を用いて考察できる。 c:約数と倍数の定義を理解し求めることができ、また、不定方程式の解を求めることが出来る。 d:整数の性質について体系的に理解している。	確認テスト ノート 定期テスト 観察
3学期	微分と積分	微分	○	○	○	○	a:微分によって求まる関数に興味を持ち、関数の値の変化に活用しようとしている。 b:導関数を用いて複雑な関数について考察できる。 c:微分を行うことで３次関数などのグラフをかくことができる。 d:具体的な事象についての応用法を理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:数学的な見方や考え方
　　c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。